

### トップメッセージ

厳しい環境が続くなか、  
業績は赤字となりました。

代表取締役社長

小俣 邦正

Kunimasa Omata



### アジア地域への拡販に努めましたが 厳しい状況が続きました。

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新興国経済の減速や米国の財政問題など大きな下振れリスクを抱えているものの、緩やかな回復が続きました。わが国経済は、新政権が打ち出した各種政策により円安株高が進行し、輸出環境に改善が見られ、企業の設備投資にも一部回復の動きが見られるなど、緩やかに持ち直しの動きが見られました。しかしながら、雇用環境の改善の遅れや来春の消費税増税の影響懸念などから、依然として先行きの見通しは不透明な状況が続いています。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、スマートフォンやタブレットPCの成長が、当社グループの主要な取引先である電子デバイス業界を引き続き下支えしているものの、従来のPC、テレビ、デジタルカメラ等は依然として厳しい状況が続いており、ユーザーの設備投資に対する姿勢は慎重なまま推移しました。

こうした環境の中、当社グループでは、主にスマートフォン用の電子デバイス市場に向け、中国、台湾を中心としたアジア地域へ引き続き拡販に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高28億64百万円(前年同四半期比21.6%増)、売上高23億21百万円(同36.3%減)となりました。

損益につきましては、経常損失2億30百万円(前年同四半期は25百万円の経常利益)、四半期純損失3億33百万円(前年同四半期は30百万円の四半期純利益)となりました。

### サービス事業では 各種提案の取り組み効果が出てきました。

真空技術応用装置事業の業績につきましては、設備投資に対する動きは低調に推移し、受注は厳しい状況となりました。受注高は23億円(前年同四半期比24.7%増)、売上高は17億57百万円(同43.9%減)、セグメント利益は23百万円の損失(前年同四半期は3億4百万円の利益)となりました。

水晶デバイス業界では、最新装置の拡販を中心に進捗してまいりましたが、設備投資の回復は見られず、受注・売上ともに厳しい状況となりました。

水晶デバイス装置の受注高は6億47百万円(前年同四半期比3.5%増)、売上高は6億17百万円(同44.6%減)となりました。

光学業界では、中国、台湾を中心としたアジア市場を中心に営業活動を推進してまいりました。

光学装置の受注高は11億3百万円(前年同四半期比47.2%増)、売上高は4億61百万円(同74.0%減)となりました。

電子部品装置・その他装置の受注高は5億49百万円(前年同四半期比17.0%増)、売上高は6億78百万円(同181.3%増)となりました。

サービス事業につきましては、ユーザーに対する定期訪問、定期連絡による、装置の改良提案、生産終了品目の案内と新機種への取替え提案などに積極的に取り組んできた効果が確実に出てきました。

サービス事業の売上高は5億63百万円(前年同四半期比10.5%増)、セグメント利益は37百万円(同48.8%減)となりました。

### 誠に遺憾ながら 無配当とさせていただきます。

当社は、株主様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。業績の伸長度に応じた安定的な経営基盤の確保および財務体質の健全性の維持を勘案しつつ、安定した利益還元を継続的に実施していくことを基本方針としております。

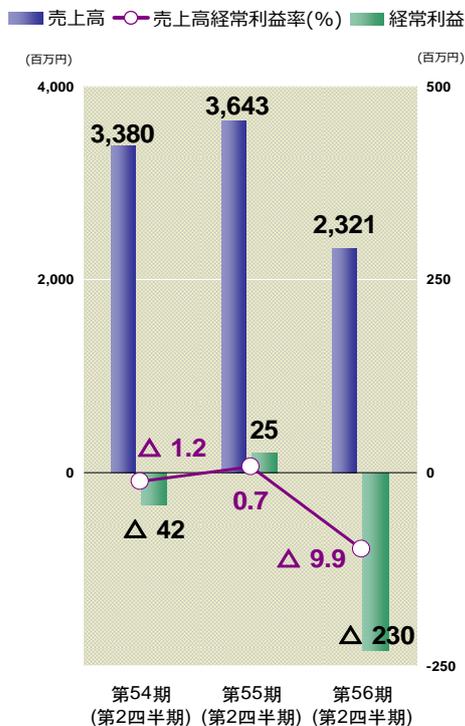
しかしながら、現在の業績の進捗状況等を踏まえると、緊急固定費削減策をはじめとした施策の実施をしても当期の利益確保は厳しい状況となったため、誠に遺憾ながら期末配当予想を1株0円とさせていただきます。

株主の皆様にはお詫びを申し上げますとともに、経営改革を推進し、今後の業績回復を目指して、さらなる経営努力を重ねてまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

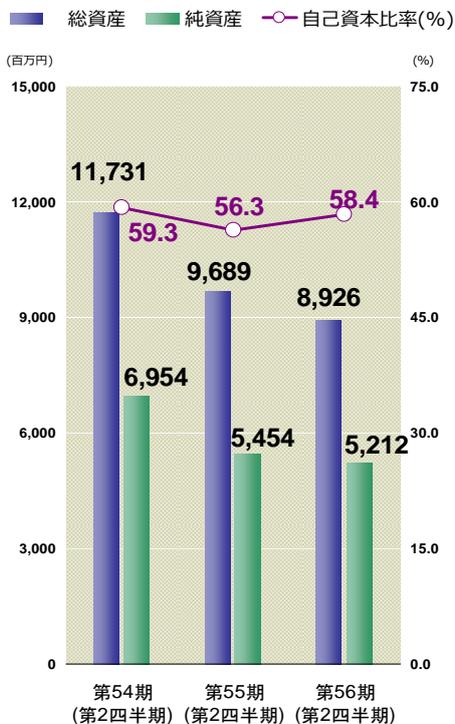
# 連結財務ハイライト

固定費の削減に努めたものの、売上高の絶対量が足りず、赤字となりました。

## 売上高・経常利益・売上高経常利益率



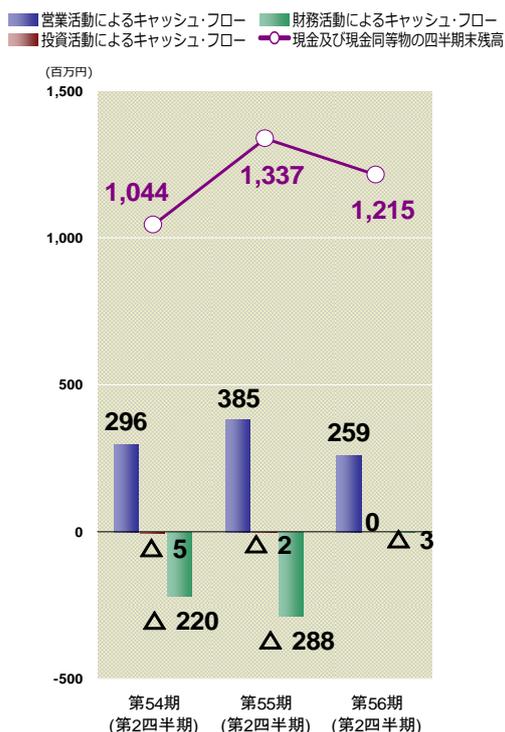
## 総資産・純資産・自己資本比率



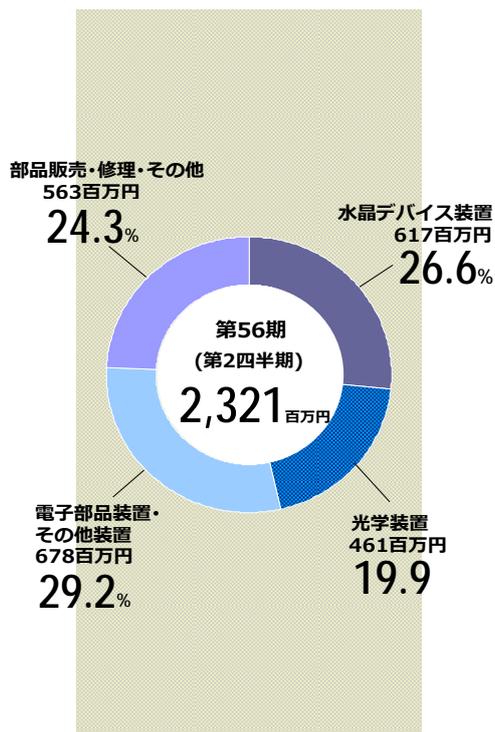
## 流動比率



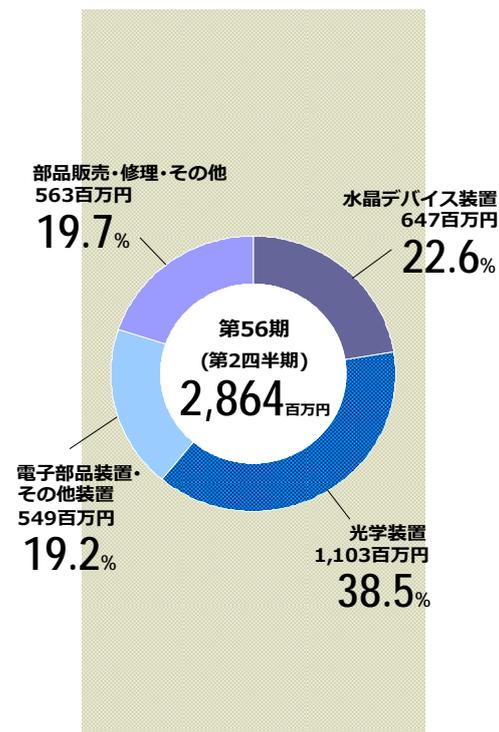
## キャッシュ・フロー



## 品目別売上高構成比



## 品目別受注高構成比

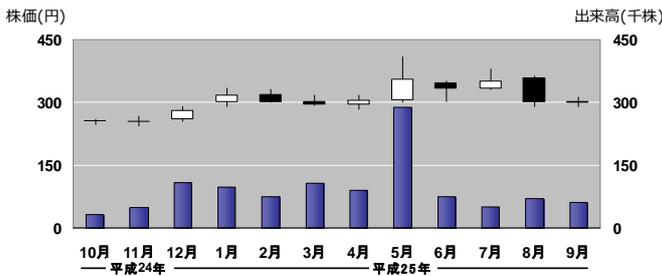


□ 株式の状況

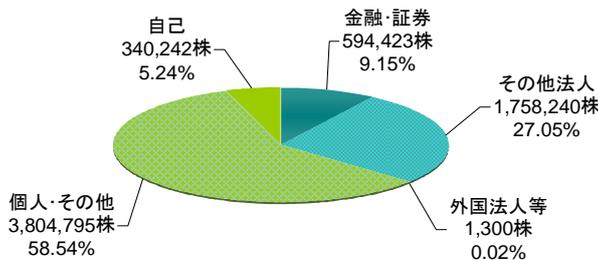
発行可能株式総数……………13,800,000株  
 発行済株式の総数……………6,499,000株  
 株主数……………2,529名

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社アルバック	1,329,500	21.59
小俣邦正	567,600	9.21
有限会社小俣興産	381,440	6.19
株式会社昭和真空	340,242	—
昭和真空従業員持株会	273,852	4.62
株式会社三菱東京UFJ銀行	145,000	2.47
日本生命保険相互会社	129,600	2.33
小俣佳子	120,000	1.94
小俣輝明	120,000	1.94
小俣みつこ	120,000	1.94
株式会社みずほ銀行	96,000	1.55
株式会社横浜銀行	96,000	1.55

□ 株価および売買高の推移(月次)



□ 所有者別株式状況(株式数)



□ 株主メモ

株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 同送付先・連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
 野村證券株式会社 全国本支店  
 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日  
 基準日 3月31日  
 その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め  
 公告いたします。  
 配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当金の支払を行う時は9月30日  
 公告掲載方法 電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告  
 によることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

□ 会社の概要

商号 株式会社昭和真空  
 設立 1958年(昭和33年)  
 資本金 2,177,105,200円  
 従業員数 186名  
 営業種目 水晶デバイス用、光学薄膜用、電子デバイス用などの  
 総合的な真空関連装置ならびに真空機器等  
 真空蒸着装置、スパッタリング装置、イオンプレーティン  
 グ装置、ドライエッチング・アッシング装置、真空冶金(溶  
 解、熱処理、焼結、脱ガス)装置、光学薄膜用モニター  
 (多色式、単色式)、IAD冷陰極イオンソース、液晶注入  
 装置、有機EL用蒸着装置、その他  
 取引金融機関 三菱東京UFJ銀行、横浜銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、  
 八千代銀行、山梨中央銀行、城南信用金庫

□ 事業所

本社・相模原工場  
 〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3062番地10  
 TEL. 042-764-0321 / FAX. 042-764-0329  
 大野台 パーツセンター  
 〒252-0331 神奈川県相模原市南区大野台二丁目27番2号

□ 役員

代表取締役社長 小俣 邦正 監査役 村木由之亮  
 執行役員 市川 正 監査役 千葉 睿一  
 取締役執行役員 高橋 理 監査役 中村 孝男  
 取締役執行役員 久島 博美  
 取締役執行役員 田中 彰一

□ グループ会社および関係会社

[グループ会社]

- 昭和真空機械(上海)有限公司
  - 所在 中国上海市
  - 主な事業内容 当社装置の生産
- 昭和真空機械貿易(上海)有限公司
  - 所在 中国上海市
  - 主な事業内容 当社装置・部品の販売、  
サービス・メンテナンス
- 株式会社エフ・イー・シー
  - 所在 埼玉県狭山市
  - 主な事業内容 マグトラン(歯のない歯車)の製造・販売



[関係会社]

- Sansei-Showa Co., Ltd. USA
  - 所在 米国オハイオ州

□ IRカレンダー

11月 第56期 第2四半期決算発表・ 決算説明会	6月 第56回 定時株主総会 経営報告会
2月 第56期 第3四半期決算発表	有価証券報告書提出
3月 31日 第56期 決算日	8月 第57期 第1四半期決算発表
5月 第56期 決算発表・決算説明会	9月 30日 第57期 第2四半期 決算日